

社会貢献活動

豊かなサンゴの海を永遠に

——サンゴ礁保全プロジェクト

気候変動、海水汚染等を理由として、サンゴ礁が危機に瀕しています。

三菱商事は、サンゴ礁を保全することを目的として、2005年に「サンゴ礁保全プロジェクト」を立ち上げました。「国際サンゴ礁年2018」のオフィシャルサポーターを務める三菱商事のサンゴ礁の保全に向けた取組を紹介します。

3拠点での調査研究をサポート

近年、海水の温度上昇によると思われるサンゴの「白化現象」や海水汚染によるサンゴへの被害が大きな問題となっています。「サンゴ礁保全プロジェクト」では、沖縄、セーシェル、オーストラリアの3拠点にて、サンゴ礁の保全について、さまざまな角度から調査・研究活動に取り組んでいます。三菱商事は調査研究への財政的な支援を行うとともに、社内から募ったボランティアを派遣し調査研究活動をサポートしています。

当プロジェクトの成果は、ホームページや学会等で発表するのみならず、夏休みに小中学生を対象としたサマースクールを開催し、子

どもたちに対する普及啓発も行っています。

2018年は、国際サンゴ礁イニシアティブが指定した「国際サンゴ礁年」です。三菱商事は国際サンゴ礁年2018のオフィシャルサポーターとして、引き続き調査研究のサポート、成果の普及啓発を進めます。

サンゴの白化現象とは？

サンゴ体内で光合成を行う褐虫藻が失われることによりサンゴの色が抜け、白くなる現象。褐虫藻からの有機物の供給が途絶えると、サンゴは栄養を取れなくなり、白化状態が続くとサンゴは死んでしまいます。



セーシェル (2006年～)

英国エセックス大学デヴィッド・スミス博士を中心に、同大学、セーシェル海洋公園管理局海洋技術研究センター、アースウォッチ・ヨーロッパと協力し、キュリーズ島でさまざまなサンゴ礁の生態や環境ストレスに対する反応について研究・調査活動を実施しています。

プロジェクトの活動拠点



オーストラリア (2011年～)

ジェームズクック大学、アースウォッチ・オーストラリアと協力し、グレートバリアリーフのサンゴの病気についての調査研究を行っています。特に、季節変動、光、温度や水質が、サンゴの黒帯病にどのような影響を与えるのかを研究しています。

沖縄 (2005年～)

静岡大学鈴木^{よしみ}教授をプロジェクトリーダーに、同大学、琉球大学、アースウォッチ・ジャパンと協力し、サンゴの白化現象の原因とメカニズムの解明、サンゴ礁の健全性保持および白化回復技術の確立のための研究を実施しています。同研究への継続的な支援が評価され、三菱商事は日本政府から2008年度に紺綬褒章を受章。研究内容をまとめた論文は2012年に国際サンゴ礁学会から最優秀論文賞を受賞しました。

